

- 1 実施日時 令和6年3月25日（月）10時から11時30分まで
- 2 実施場所 浜松市雄踏文化センター（浜松市中央区雄踏町宇布見 5427 番地）

3 実施内容

- (1) タイトル 「コーヒーの生産と流通を通して世界を知ろう」
- (2) 内容 コーヒー生産やフェアトレードの現状についてより多くの人に知ってもらい、また人にも環境にも負担の少ない国産コーヒーの生産を応援する。

- ①徳之島生産者会のみなさん（リモート）
- ②株式会社豆乃木 代表 杉山世子さん
- ③静岡文化芸術大学 西田侑以さん
- ④静岡県立浜松湖東高校 フェアトレード研究会



4 プロジェクトの概要

<テーマ設定>

3年ほど前からフェアトレードに関心のある有志の生徒が集まって、徳之島コーヒー農園の研修に参加したり、外国のトレードの現状をリモートなどで学んだりしてきました。高校生にできることとして、文化祭や協働センターまつりでのフェアトレードコーヒーの販売などをしてきましたが、更により多くの人にフェアトレードを考えるきっかけにしてほしくて、今回のテーマを設定し、講演会を開催しました。

<イベント実施までのプロセス>

- 6月 ドリーム・プロジェクト採用決定、講師選定・交渉
- 7・8月 フェアトレード研修、ポスター作成アプリ研修参加、会場の選定
- 10・11月 ラオスフェアトレード研修（ラオス農家とのリモートでの交流）
- 12月 ポスターの配布（近隣小中学校へ持参）
- 1月 フェアトレード研究会の発表内容作成・発表練習
- 2月 フェアトレード業者の方に発表内容の指導をお願いする
- 3月 徳之島生産者会とのリモート事前打ち合わせ

<イベント当日>

徳之島生産者会のみなさんはコーヒーづくりを楽しんでされており、コーヒーアイランド徳之島の名前を多くの人に知ってもらいたい、そうして若者がコーヒー生産に魅力を感じて島に戻ってきてほしいと感じています。

株式会社豆乃木、杉山世子さんはメキシコのマヤから直接コーヒーを買い付けています。その中で生産者との良好な関係がコーヒー生産にも影響し、そのためには直接コミュニケーションを取れるよう、言葉を学んだり、何度も足を運んだりする必要があると感じたそうです。

静岡文化芸術大学 西田侑以さんは、高校生のときのフェアトレードの探究的な学びが自分を支え、やりたいことを貫くことでそれが社会に求められる方向と重なっていたら素晴らしいというお話をしてくださいました。

浜松湖東高校フェアトレード研究会の発表は、フェアでないトレードが児童労働や環境破壊を引き起こしていることから目を背けず、これからは人に優しい社会を目指していきたいという内容です。

## 5 感想

### ○来場者の感想

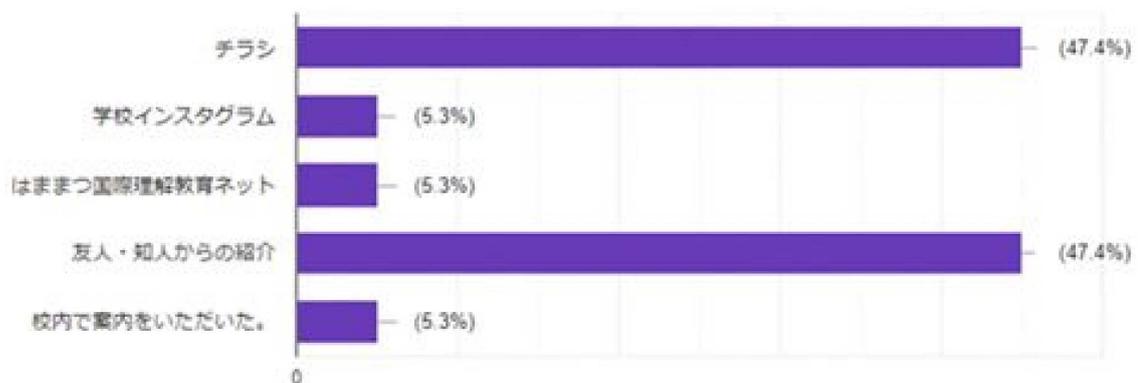
- ・フェアトレードについて、知らないことも学ぶことができた。このような発表を他の場所でも行えると良いと思った。
- ・スライドの文字が見にくかったが、いろいろ知ることができて面白かった。
- ・さらにフェアトレードについて知識を深めることができたと思う。豆の木さんのお話では、フェアトレードの貿易に至った経緯などを実際の経験とともに知ることができて、とても面白かった。来て良かった。
- ・今までフェアトレードの商品を買わずに安くて美味しそうな物を買っていたので、これからはフェアトレードの商品を買ってみようと思った。
- ・フェアトレードについて理解がより深まった。これからはフェアトレード商品に目を向けていきたい。フェアトレードという言葉自体がいつか無くなればより幸せになれると思った。
- ・フェアトレードの考え方は既に分かっていたが、生産者や流通・販売者のお話を初めて聞いて、新たに知る面が数多くあった。
- ・高校生・大学生のみなさんにも、目標に向かって取り組む姿にエールを送りたいと思った。
- ・とても素敵な取組だった！応援しています。
- ・それぞれがどんな気持ちで活動してるか、情熱や思いが伝わり有意義な時間でした！ありがとうございます。
- ・講師の講演は、最後にした方が良かった。徳之島の人達の言葉を、もっと上手に引き出してほしかった(例えば、杉山さんに司会をお願いするとか)。最後に、質問を受け付けてほしかった。
- ・貴重なお話や日頃の研究の成果を聞くことができ、もっと多くの人に今回のような内容が伝わればいいと思った。会の冒頭に本日の流れや趣旨について説明があったり、湖東高校の皆さんや西田さんのお話がプログラムの最初に来たほうが、あまり前提となる知識のない参加者も課題意識を持ってその後の発表を聞くことができたかもしれない。

- これまでなんとなく知っていたが、実際に携わっている方々の話を聞き、身近なこととしてよく理解できた。大学生の考えや高校生の取り組む姿勢にこちらも学ばせていただいた。
- 高校生のみなさんが、自分たちで考え、行動している姿を大変心強く思った。浜松市はフェアトレードタウンだが、認知度が低いことを残念に思っている。みなさんからフェアトレードタウンとしてのPRが広がっていくことを期待している。これからも頑張ってください。本日はありがとうございました。
- 浜松がフェアトレード都市であることを知り、誇りに思う。毎日頂いているコーヒーのことを、またフェアトレードのこと、公正な貿易について理解を深めてできることに参画していきたい。
- フェアトレードというものを知らなかったなので、詳しく知ることができてよかった。
- コーヒーの流通の仕組みがわかった。
- フェアトレードについてより詳しく知ることができた。誰のコーヒーか想像しようと思った。

フェアトレードへの興味関心の度合いを教えてください。



講演会の開催を何で知りましたか？



どの講演内容に興味を持たれて参加されましたか？



### ○運営生徒の感想

- ・一年前は自分自身もフェアトレードについてあまり知らなかったが、今回の講演会で自ら情報を発信することができて、自分の成長を感じた。また発表では原稿を覚えることでお客さんの方を見て話すことができた。もう少し声に感情をのせて話せば良かったと思う。他の講演者の話を伺って、自分が興味を持った物事には躊躇わずに行動することが大切だと知った。また、自分の長所を生かした活動も積極的に行うべきだと学んだ。この一年の学びの中で、ラオスのコーヒーチェリー農家さんとの交流が心に残っている。一年前は自分から何かを話したり行動したりすることが苦手で躊躇ってしまうことが多かったが、今は少しずつ自分から何かを行えるようになったことに成長を感じた。(1年E.I)
- ・思ったよりも沢山の人が来てくれて良かった。フェアトレードに興味がない人ももっと来てくれると良くなると思うが、難しいかもしれない。豆乃木さんのお話で、ただビジネス上でのパートナーになるだけではなく、細かくコミュニケーションを取ることが必要だと知って、なかなか難しそうだと思った。また先輩の話では、良い事だから進んでやっている訳ではなく、人の話を聞くことが好きだからやっていることだと言っていて、私も好きなことを続けていきたいと思った。この一年、先生を招いて話を聞いたり、リモートで会話したりしたときの記録をもっときちんと残しておけば良かったと思っている。後になって見返しても、あまり内容が思い出せないことが多かったから、後で見ても理解できるようなメモの仕方を覚えて、書いた紙の管理もできるようにしたい。(2年N.K)
- ・今まで自分たちがやってきたことをみんなに伝えることが出来て良かった。発表では今までの経験をみんなに伝えることが出来て良かった。緊張して早口になってしまったため、もっと落ち着いて話せば良かった。また徳之島生産者会のみなさんのお話は、コーヒー生産者だから、分かること、みんなに説得力を与えられるような話だったため参考になった。フェアトレードをはじめ、私は新しいことを沢山経験し、学ぶことが出来た。チラシを作ったり、配布したりするのははじめてだった。今までは何か行動を起こしたり、人前に出て何かしたりすることが苦手だった。活動の中でも、思った通りに行かないことも多くあった。しかし、今回みんなで協力して、1つの講演会

を成功させることが出来て良かった。(2年 M.N)

- 思ったよりたくさんの方が来てくれて、私たちが広告やコーヒー販売などの活動を通じて出会った人が聞いてくれて人と繋がることができたと思った。徳之島生産者会のみなさんの現地の声は心に刺さるなどと思った。この一年フェアトレードについて考え、本当はない方がよいものだと思った。最初は、公正な取引ということしか知らなかったが、学んで、仲介者にお金が渡り、生産者の苦しさを知ることができた。時間をかけ良い商品を作っていることを思いフェアトレード商品を買って欲しい。(2年 N.M)
- フェアトレード研究会には後から入ったので、フェアトレードに関して詳しくなかったが今まで知らなかったことを学べて良かった。内容は、問いかげやグラフでわかりやすくまとめ、発表していた点が良かった。初めの(導入の)問いかげも誰かに答えてもらって、話を聞きやすくした方がさらに良かったかなと思った。豆乃木さんのお話から、自分から積極的にコミュニケーションをとる大切さや何事も継続的にやらなければ信頼関係は築けず、上手く出来ないという経験からのお話は説得力があり、聞いていてとても勉強になった。また先輩のお話も、好きなことややりたいことへの関心を行動に移すまでが大切で、多くの会社や企業が求めている人物像と知り、自分も何か見つけて行動したいと思った。今回の活動で、言葉で伝える大切さを学ぶことができた。(2年 H.H)
- とにかく私たちが知ってほしいことをまとめられて、伝えられて良かった。私たちの力だけでまとめられたわけではないが、発表のベースをまず作り、それを元に発表が出来たことにとっても満足感が得られた。徳之島の方の話では、農業人口が減っていることに関して、今の農家さんたちは本当に困っているということが分かった。農業はあまりお金がもらえない上に重労働だということから、人口が増えていかないため、まずは経済面からのアタックが必要だと思うが、そこが難しいからこうなってしまう。ここを解決しないと国内の農作物は減って海外が大変になると思った。この農作物はここじゃないと育てられない、というのも近年の技術でだんだんとなくなってきたので、なるべく農作物の生産を特定の場所に集中させずに作っていけるようになっていたらいいなと思った。豆乃木さんのお話では生産者の方とのコミュニケーションがあまり取れていなかったことから、コーヒー豆の販売が上手くいかなかったという話を聞いて衝撃を受けた。商売だけの付き合いではあまり上手く連携も取れず、後になってから急に生産状況を聞くことになるのは大変だと思った。言語の壁が大きく、歴史的なことであまり歓迎されないというのものもあるが、こちらから距離を詰められるように様々なことを学んで現地の生産者の方たちと仲を深めて信頼を得ることが大事だと知ることができた。また、西田先輩は、とにかくすごい人だという認識を持っていた！この活動を始めたきっかけはひよんなことからだったことを知ることができたが、そこからここまで活動を広げ、自分の将来に繋がるようになっていくところが本当に素敵なお方だと思った。今はとにかく様々なことを知ることをして

ているが、それを社会に出たときに生かしていけるように、社会を変えられるように考えていくことが大事だと思った。自分がやりたいこと、好きなことをもっと追究していけるようにすることも大事だと改めて思ったので、これからの学校生活を頑張ろうと思った。この活動を通じて、自分はまだまだ知らないことが多いことを痛感した。フェアトレードについて知って、これは本当に良いことだ！と思ったら、その裏にデメリットがあることも知り、それを聞いたらじゃあ私たちは何をしたら正解なんだろうと悩むときもあった。フェアトレードは本当に奥が深く、難しいのは事実だが、だからこそ話を聞いてみたい、現状を知りたいと思えた。ラオスの農家さんと交流できたことが本当に印象に残っている。普段海外の方と交流するなど、ALTの先生の授業しかないので本当に新鮮だった。そこでやっと、コーヒーの豆の生産の大変さが目に見えたのもあり、より一層この活動に熱が入った。フェアトレードについて研究している方々、その商品を生産する方、販売する方、と様々な方たちからお話を聞けるのは貴重なことで経験値がアップしたようなそんな感じがした。もう少し想像力が必要だったと感じた。商品の販売にしても、講演会の呼びかけにしても、もっと人を集めるための案を考えられる力が欲しかった。講演会はチラシを配ったり、呼びかけをしたりしても正直あまり人数が集まらなかった気がした。これからの社会を築いていく同年代の方たちにもう少し来てほしかったのが本音としてある。何が足りなくて来場者が少なかったかを考えられるようになったら良いと思った。(2年M.M)

- 市議会議員の方などいろんな方が参加してくださって嬉しかった。自分たちの発表の声はしっかり聞こえていたと思うが、紙芝居の色がはっきり見えなかったのが残念だった。先輩のことはよく知らなかったが、当時の苦労や考え方がわかった。少しラオスの人々のことを考えながら勧誘をしていたが、現状の押しつけはよくないことを改めて理解した。(1年K.H)
- 自分たちもそうだが、OG、徳之島の方々、先生方などの協力に感謝したい。少し緊張に負けてしまったがなんとかやり抜いたのが良かった。質問のときの沈黙の時間ができてしまったのは良くなかった。徳之島の方のお話を聞いて、リモートにいた人からもわかるように、若者が少ないから若者が興味をひくようにしていきたい。チラシの作成や配布を通じて、地域に興味・関心を持たせることができて良かった。成長した点としては、フェアトレードに関する知識や説明能力が向上したことだ。しかし、効果的な問題解決ができたかという点はまだ改善の余地があると思う。(1年K.K)
- 思ったよりも人が来てくれて良かった。けれど、講演会自体イベントとして人が集まりにくいと思うから場所や時間、イベント内容をもっと他から見に行きたいと思えるようにすれば良かったと思う。反省だったり、講演会の準備だったり、どのようにしたら良いのかを考える機会が多く、自分には貴重な体験だったと思う。(1年N.N)
- 無事に最後までやりきることが出来たので良かった。徳之島生産者会の方とのリモートではスムーズにできなかったところが悔しい。原稿の読み間違いが多かったので、

もっとたくさん練習しておけば良かったなと思った。杉山さんの行動力がすごいと思った。実際に現地に行って現地の人と関わるのが大切なんだと思った。西田先輩は本校にいたときにジェンダーやフェアトレードのことなど、いろんなことをやっていたすごいと思った。今まではフェアトレードという言葉を知っているだけであまり興味がなかった。「面倒くさい」、「何のためにこの活動をするのかわからない」などと思っていた。この活動を通じてフェアトレードについてきちんと学ぼうと思うようになり、そして楽しいと思うようになった。リモートでコーヒー豆を育てている方の話を聞いたり、作業したりしているのを見て、フェアトレードをもっとたくさんの人に知ってもらう必要があると思った。もっとたくさんの人にフェアトレードに興味を持ってもらうために文化祭などでコーヒー販売をしてきた。思うようにコーヒーが売れなかったときもあった。コーヒーを売るときは一人でも多くの人にフェアトレードに興味を持ってもらいたいという思いで活動してきた。この活動をしていて特に嬉しかったことは、コーヒーを買ってくださった方から頑張っねと言ってもらったことだ。この言葉を聞いたとき私はとても元気づけられた。印象に残っているのはチャンパーさんとのリモートだ。そのときにコーヒー栽培の大変さを学んだ。自分が想像していた以上に大変だった。それをチャンパーさんたちは一つ一つ丁寧に行っていてすごいと思った。約一年間この活動が出来てとてもよかったし楽しかった。いろんなことを学ぶことができ充実した時間を過ごすことが出来た。(2年 R. I)



↑ イベント開催に向けた会場準備の様子 ↑



静岡文化芸術大学 西田侑以さんの発表



株式会社豆乃木 代表 杉山世子さんの講演



浜松湖東高校 フェアトレード研究会の発表



杉山さん、西田さんへお礼の花束贈呈



↑フェアトレード商品の販売の様子↑

